

将来、「町内の医療機関、福祉施設で活躍したい!」という皆さんをお待ちしています。

①医療・福祉従事者確保対策助成金

職種	学校卒業後の要件	助成金額
医師、歯科医師	助成金を受けた期間の3倍の期間内に、助成金を受けた期間と同等の期間以上町内の医療機関に勤務すること	月額10万円以内(最大6年間)入学時のみ一時金50万円以内
薬剤師	卒業後5年以内に、助成期間と同等の期間以上、町内の医療・福祉機関等に勤務すること	月額5万円以内(最大4年間)入学時のみ一時金50万円以内
看護師、保健師、介護福祉士、歯科衛生士		

②看護師・介護福祉士確保対策就業支度金

職種	学校卒業後の要件	助成金額
看護師	看護師の資格を有し、町内の医療・福祉機関等に勤務しようとする人(3年以上)	50万円
介護福祉士	介護福祉士の資格を有し、町内の福祉施設に勤務しようとする人(5年以上)	30万円(正規職員として採用された日に町内に住所がある人、正規職員として採用された日から1週間以内に転入した人で、引き続き町内に住所がある人は20万円を加算)

※年度によって各職種の募集人数は変動します。詳細はお問合せください。

■お問合せ/保健福祉課 電話72・1770

介護・看護の仕事の魅力を伝えたい

平成28年、島根県の行った調査で、県内の介護職場で、介護・看護職員が不足していることが報告されました。町内でも、その状況は変わりません。

「何の仕事してるの?」「介護の仕事」「大変だね~」よく耳にする会話です。「大変」だというイメージのある介護・看護の職場。その現場で働く人に聞いてみました。



島根県立石見高等看護学院 副院長 宅野真由美さん

卒業後は地元で活躍してほしい

地域を知っている生徒・子ども達を地域で育てて、その子ども達が地域の資源である人を守っていくということは大切なことだと思います。

看護・介護の主たる仕事は、身の回りの援助、生活療養上の支援です。その人を、病気の視点で見るとはならず、「生活者」という視点で見ることがあります。その人がこれまでどのような環境で生活してきたのか、その人の全体像を知り、その人らしい生活を送る支援を行います。そうしたときに「顔が見える」ということはとても重要です。

看護・介護の仕事は、命も預かる仕事。だからこそ責任も大きいです。しかし、人が相手の仕事だからこそ、生き方を学び、他人のために、地域のために、家族のために、自分のために、人間として成長できる仕事です。

ふるさとのために働こうと頑張っている皆さんを、地域の皆さんは心待ちにしていると思いますよ。

この仕事の厳しさ
 介護・看護の仕事は、個人の生活の中に入って行く仕事、「人」が相手の仕事であるため、万人に共通した正解がありません。いつもと同じ対応をしても、うまくいかないことも。対応一つで変わります。常にその人のことを知ろうとする努力が必要です。

魅力。身近にある「笑顔」
 「夜勤があったり死に直面することもありますが、とてもやりがいのある仕事です。私がしたこと、笑顔になってくれる、笑わなかった人が笑えるようになる、話せなかった人が話せるようになる。そういったきっかけをつくることで、そういう場に出会えるから。」
 こんなに人の笑顔に触れられる仕事は、他にないと思います。おじいちゃんおばあちゃん、とても心があたたかいです。私まであったかい気持ちになりますよ。いいですね介護って。しみじみ。大好きな仕事です。

介護・看護の職場、低下する充足率

介護職場における人材確保の実態などを把握するため、島根県が昨年9月から10月にかけて行った「介護・障がい福祉人材の確保・定着に関する実態調査」。調査によると、介護分野における介護・看護職員の採用にかかる事業所側の希望人数に対する実際の採用人数の割合(充足率)は、介護職員88・9%、看護職員79・8%です。

いずれの充足率も、平成25年度と同調査から、介護職員は約10%、看護職員は約4%低下。職員の確保がより困難になっていることがうかがえます。

しかし、実際に介護や看護の職場へ行くと、実に生き生きと働いている人たちの姿があります。

「いいですね介護って」

と話すのは、特別養護老人ホーム「愛寿園」で働く三島果歩さん。飯南高校卒業後、岡山県の大学で2年間、介護について学び、3年前の春から愛寿園に勤務しています。現在4年目。

介護の仕事に就くきっかけは、ご自身の家庭環境と職場体験。

父子家庭で、学校・部活動の送り迎えやお弁当、家事は、祖母にお世話になっていたりという三島さん。また、中学生の職場体験のときに愛寿園に来て、そのときから、「ここで就職したい。介護の仕事に就きたい」と思っていたという。「おじいちゃんおばあちゃん、地域の人、介護が必要になったときに役に立てたら」と思っていました。

都会の壁、地元の良さ
 大学の実習で行った都会の大きな介護福祉施設では、他人行儀とまではいかないまでも、施設利用者と職員の間を線を引き、「壁を感じたという。「でも、地元は、家の屋号を言ったら分かってもらったりで、会話がはずむきっかけにもなっている」「地元っていいな」と感じます」

また、チームワークが大切な職場であるため、職員間のコミュニケーションも大切。もちろん、地元ならではの難しさもあるようですが、知り合いが多い分仕事しやすいとのこと。「仕事から離れた場所でも、例えば地域でも関係のある皆さんなので、何でも話し合えたり相談できます」